

# 大池小・ひかりが丘小 小規模校再編検討委員会「準備会」ニュース

発行日：平成21年4月30日  
発行：横浜市教育委員会事務局学校計画課

## 検討委員会「準備会」開催

☆平成21年3月30日(月)19時00分から  
ひかりが丘小学校コミュニティハウスにて

大池小学校・ひかりが丘小学校の小規模校化という状況を踏まえ、児童の教育環境向上を図るため、再編統合に向けた検討が必要な状況になっています。

そのため、保護者代表の方々、地域代表の方々、学校関係者等を対象に小規模校再編検討委員会設置に向けた準備会を開催し、現状や今後の進め方等について教育委員会から説明させていただきました。

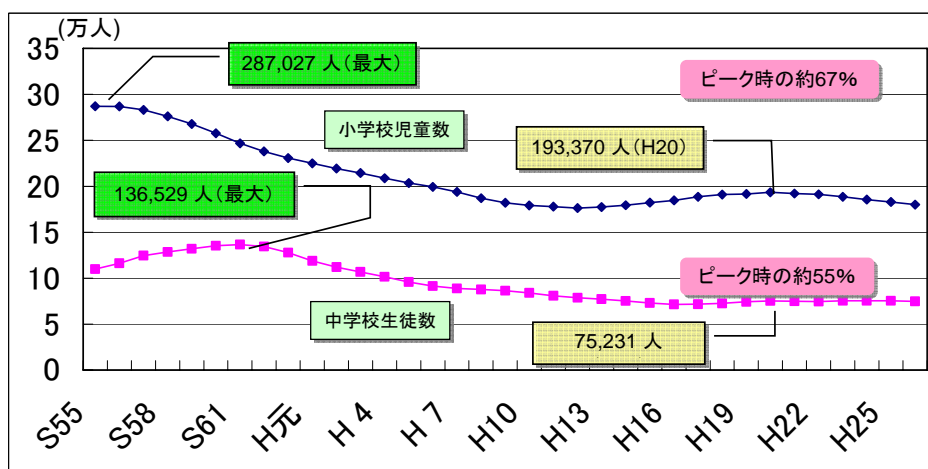
今後、小規模校再編検討委員会を組織し、検討を進めていきます。

### 今回の説明内容等

- 1 横浜市の児童・生徒数の状況
- 2 横浜市立小中学校の規模及び配置の適正化並びに通学区域制度の見直しに関する基本方針
- 3 大池小学校及びひかりが丘小学校の概要
- 4 大池小学校及びひかりが丘小学校の学校規模への対応
- 5 再編統合の効果
- 6 再編統合の検討の進め方
- 7 再編検討委員会設置に向けた調整事項

## 1 横浜市の児童・生徒数の状況

横浜市の児童・生徒数は少子化により減少傾向にあり、特に小学生の数はピーク時(昭和55年)の6割に減っています。



(H20以前) 5月1日実数で、個別支援学級、盲・ろう・養護学校を含む。  
(H21以降)推計値

## 2 横浜市立小中学校の規模及び配置の適正化並びに通学区域制度の見直しに関する基本方針

横浜市教育委員会では、平成15年12月に「横浜市立小中学校の規模及び配置の適正化並びに通学区域制度の見直しに関する基本方針」を策定して、児童・生徒数の増減による学校規模の適正化に取り組んでいます。

### 「横浜市立小中学校の規模及び配置の適正化並びに通学区域制度の見直しに関する基本方針」(抜粋)

#### 【学校規模】

〈適正規模の考え方〉

- 適正規模校 小中学校とも12～24学級
- 小規模校 11学級以下(小学校) 8学級以下(中学校)
- 過大規模校 小中学校とも31学級以上

小規模校では、次のような問題点が指摘されています。

#### 【人間関係面】

クラス替えができないので、人間関係につまずいたとき修復に時間を要することが多い。  
多くの友だちと知り合う機会が少なく、人間関係が固定化しやすい。

#### 【子どもの活動面】

運動会・体育祭などで、集団演技やリレーなど一定以上の人数が必要な種目や競技が行いにくい。  
合唱やスピーチコンテストなど子ども同士が相互に評価し合う発表会が行いにくい。  
クラブ活動や部活動の設置数が限られるため、選択の範囲が狭くなる。

#### 【学校運営面】

学年1学級の場合、担任は学年や学級の運営を一人で行うことが多くなる。  
教職員一人ひとりが担当する校務が多くなり、負担が大きい。  
PTA活動において、保護者の負担が大きくなる。

「横浜市立小中学校の規模及び配置の適正化並びに通学区域制度の見直しに関する基本方針」(抜粋)

【学校規模の適正化方策】

1 小規模校対策

小規模校の問題点を解消し、教育環境を改善するとともに、効果的、効率的な学校経営を行うために、地域と十分調整を図り、地域住民の理解と協力を得ながら、学校統合、通学区域の変更等を行い学校規模の適正化を推進する。

特に、次のような地域等に関しては対象として検討を進める。

(対象地域)

(ア)『小学校』全校の学級数が11学級以下の学校が複数近接する地域

(イ)『中学校』全校の学級数が8学級以下の学校が複数近接する地域

(ウ)小規模化の進行が著しく、教育環境確保のため早急な対応が必要な地域

ただし、通学区域内の土地の利用予測などを踏まえ、将来的にも人口急増のおそれのない学校を対象とする。

【統合の方法】

既存の学校施設を活用して統合することとし、統合に伴う新設校の建設は行わない。【統合の進め方】  
地域住民の理解と協力を得られるよう「小規模校再編委員会」(仮称)を設置し、十分調整する。

【配慮事項】

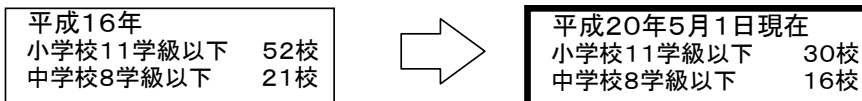
- ・「学校規模」、「通学時間・通学距離」、「通学安全」、「地域コミュニティとの関係」を総合的に配慮する。
- ・統合校を魅力ある学校とするように、教育委員会として支援する。

【統合によって生み出される旧学校施設の活用】

統合によって生み出される土地、建物は、貴重な行政財産として地域住民のニーズにも配慮して、幅広い視点から有効活用を検討する。



再編統合等による適正規模化の推進



3 大池小学校及びひかりが丘小学校の概要

(1) 地域の概要

ひかりが丘小学校は、「ひかりが丘住宅」(昭和43年～)の開発による児童数増加に対応するため、昭和51年4月に大池小学校から分離新設されました。

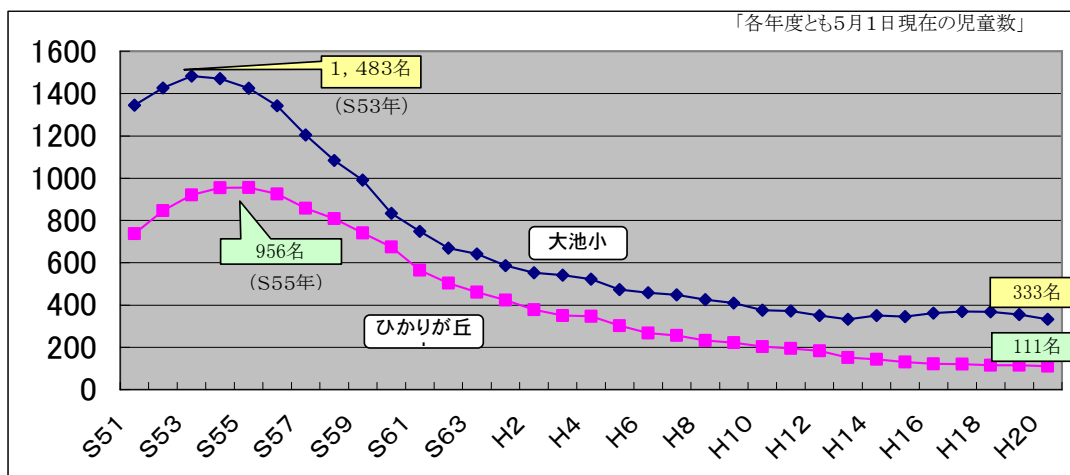
しかし、それぞれ昭和53年及び55年をピークに緩やかな減少傾向を続けていましたが、近年の少子化の影響もあり、平成22年度以降は両校とも小規模校となります。また、この地域は急増要因となる大規模開発等の予定もないことから、児童数の増加は見込めない状況にあります。

(2) 学校の開校

学校名	開校年月	備 考
大池小	昭和46年 4 月	創立37年◎白根小から分離新設
ひかりが丘小	昭和51年 4 月	創立32年◎大池小から分離新設

(3) 大池小学校及びひかりが丘小学校の児童数の推

● 昭和51年～平成20年までの推移



(4) 平成20年度以降の「児童数・学級数」の推移（個別支援学級児童を除く、平成20年度は実数値、平成21年度以降は推計値）

		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	保有教室		
									普通	個別	特
大池小	児童数	333	324	276	260	238	227	210	24	2	6
	学級数	13	12	11	10	9	8	7			
ひかりが丘小	児童数	111	97	89	76	70	62	54	14	2	7
	学級数	6	6	6	6	6	6	6			

● ひかりが丘小 H20年度「普通学級児童数」の内訳（1年生の人数はH20.5.1現在の実数値）

ひかりが丘小	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
	15(1)<1>	18(1)<4>	17(1)<2>	24(2)	16(1)<2>	21(3)	111(9)<9>

\* ( )内は指定地区外就学児童数、<>内は通学区域特認校での就学児童数で内数。



ひかりが丘小学校は既に小規模校ですが、大池小学校も平成22年度には小規模校となる見込みで何らかの対策が必要となります。

## 4 大池小学校及びひかりが丘小学校の学校規模への対応

(1) 学区調整

● 近隣校の平成20年度義務教育人口推計

### 【旭区】

\* 個別支援学級児童を除く、平成20年度は実数値、平成21年度以降は推計値

学校名	創立年月日		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	保有教室
上白根小	S50.9.1	児童数	785	774	750	711	687	632	580	25
		学級数	24	22	21	20	19	17	16	
都岡小	M6.2.25	児童数	448	446	439	459	448	440	425	16
		学級数	13	13	13	14	14	13	13	
川井小	S48.4.1	児童数	331	323	327	294	302	299	297	12
		学級数	12	12	12	12	12	12	12	

### 【緑区】

学校名	創立年月日		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	保有教室
森の台小	H13.4.1	児童数	1,025	1,056	1,108	1,105	1,173	1,202	1,190	30
		学級数	30	29	31	31	32	33	33	
三保小	S45.4.1	児童数	958	1,002	1,040	1,052	1,044	1,056	1,032	29
		学級数	27	27	28	29	29	30	30	
上山小	S51.9.1	児童数	467	452	427	400	370	344	300	16
		学級数	14	13	13	13	13	12	11	



上白根小学校・都岡小学校・川井小学校・上山小学校は児童数が減少傾向にあり、大池小学校に通学区域を変更した場合、将来的に小規模校になってしまう恐れがあります。

また、森の台小学校・三保小学校は児童数が増加傾向にありますが、ひかりが丘小学校へ通学区域を変更する場合、通学路の状況等が課題となります。



大池小学校とひかりが丘小学校の適正規模化は、学区変更では難しい状況にあります。

(2) 再編統合

● 両校を再編統合した場合の児童数・学級数

		H23	H24	H25	H26
統合校	児童数	336	308	289	264
	学級数	11	11	11	10

現時点から再編統合を検討した場合、統合校の開校は最短で平成23年4月を見込んでいます。その場合、開校時には適正規模（12～24学級）とはなりません、減少傾向は緩やかになると見込まれます。

## 5 再編統合の効果（教育環境の向上）

### 1 人間関係面

- 1年生から6年生までクラス替えが無いため、お互いを知り尽くしているという良い面はある。その一方で、友だちとの仲を悪くした場合の修復が難しい。より多くの人数の中で、刺激を受けながら学校生活を送ることは社会性を身につける上からも必要。
- 友人関係も広がり、多様な個性とふれ合うことで、いろいろな考え方を身につけることができる。また、気のあった友だちと出会う機会も増える。
- クラス数が多いと、クラス意識が高まるとともに、互いに「助け合う」という意識も働きやすい。
- 児童数・クラス数が増えるので、活動や交流の幅が広がる。
- クラス替えや大人数を経験して中学校に入学した方が、中学入学時の環境変化に順応しやすい。
- 規模が大きい学校だと、「楽器演奏が得意あるいは各種スポーツの指導」等それぞれ得意分野の違う教員に接することができ、そこで子どもたちは、新たな自分を発見することが期待される。

### 2 子どもの活動面

小規模校は、概ね1クラス当たりの児童数が少ないことが多いので、きめ細かに指導ができるというよい面はある。しかし、児童数が少ないがために、多様なグループ活動が構成しにくく、多様な考えや多様な表現活動による学習の広がりや深まりという点では課題がある。

- 国語で詩や作文など、互いの作品を鑑賞しあう授業では、数が多い方が多様な表現を見て学ぶことができる。多い方が討論・意見交換が発展する。
- 総合的な学習等における課題別の活動も、より多くのテーマができるので、広がりや深みが出て充実する。
- 体育では、サッカーなど正式な人数によるチーム編成で試合ができる。
- 音楽では、合奏や合唱活動のグループ数も多くなり、盛り上がり、同学年の子ども同士で相互評価ができる。また、聞き手も多くなるので、張り合いが出る。
- 卒業式や入学式、運動会及び音楽発表会等各種行事も盛り上がる。
- 「学年」と「学級」の2つの組織集団の体験ができるということは、子どもにとって大事な刺激になる。学級が複数あることにより、運動会などでも競い合うことになるので、より活発なものとなる。
- クラブ活動もクラブの種類が増えるので、選択の範囲が広がる。
- 特別活動(委員会活動・運動会)の分担が減り、児童にとっては負担減となる。
- 授業・学校行事において、適正規模校の方が児童間・クラス間の競争感があり、活気やまとまりにつながる。

### 3 学校運営面

- 教職員の数が増えると、一人ひとりが担当する校務も負担が少なくなるため、時間外においても、これまで以上に「児童・生徒」に接する時間が持てる。
- 学校に関わる地域の関係者が増えることによって、各種行事を行う上でも様々な角度から「アイデアやアドバイス」等をいただき、充実した行事運営を行うことができる。
- 学年で複数の教員がいることにより、校務分掌を複数で担当でき、相談しながら行える。学級運営もよい刺激となる。
- PTA活動においては、保護者の人数も増えるため、負担が軽減される。

### 4 その他

- 校内の防犯面を考えると、統合して教職員数が多い方がよい。
- 通学区域が広がる一方で、学校に関わる地域の関係者や保護者が増えることにより、通学安全パトロールなど通学安全対策も、より充実したものとなる。
- 統合後の教育内容に合わせて施設改修を行うので、設備も使いやすくなる。

## 小規模校再編統合の実績

再編統合を行った学校では、単にクラス数が増えるだけでなく、両校の教育内容のよい面を保ちつつ、新たな教育目標を設定し、教育内容のさらなる質の向上を目指してきました。

着手年度	新校名	統合前の学校	新校の教育目標
16年度	並木中央小 (元並木第二小を使用)	元並木第二小 元並木第三小	「心の内側からわき起こる確かな自信を培います。」 「豊かなコミュニケーション力を育てます。」 (1)基礎・基本の定着 (2)英語活動の充実 (3)学校行事の充実 (4)教科担任制の一部導入 (5)教育相談の充実 (6)防犯・防災組織の整備
	霧が丘小 (元霧が丘第二小を使用)	元霧が丘第一小 元霧が丘第二小 元霧が丘第三小	「高度情報化・国際化時代をたくましく生き抜く力を身につけた児童・生徒を育成する」 (1)小・中学校の密接な接続・連携 (2)一貫的カリキュラムの実施 (3)英語教育への取り組み (4)コンピュータ・インターネットによる情報教育 (5)9年間を通じた体験学習の体系化・見直し
	上郷小 (元犬山小を使用)	元犬山小 元矢沢小	「互いに高め合い、感性豊かに自分らしく生きる子を育てます。」 (1)自分らしさを発揮できる環境づくり (2)「学び」を追求していく学習課程の工夫 (3)地域への積極的なはたらきかけ
	庄戸小 (元上郷南小を使用)	元上郷南小 元野七里小	「豊かな心と健康な体をもち、国際化の時代をたくましく生き抜く力を身につけた子どもの育成」 (1)先生とのコミュニケーションを大切に (2)一人ひとりを生かした協同的な学び (3)人権尊重の教育の展開 (4)庄戸小学校評議員会の設置
17年度	若葉台小 (元若葉台北小を使用)	元若葉台東小 元若葉台北小 元若葉台西小	「学校力と地域力で健やかな体と豊かな心を育みます・学ぶ力を育て、高めます。」 (小学校)「自他共に大切にすることを育みます。」 「意欲的な学びの芽を育みます。」 (中学校)「互いを生かし、共に支え合う生き方を育みます。」 「自ら課題を持ち、考え、解決しようとする力を高めます。」
	若葉台中 (元若葉台東中を使用)	元若葉台東中 元若葉台西中	(1)小・中学校9年間の教育を見通したカリキュラム編成 (2)地域の教育力の活用と地域活動への参画を通じた学校・社会の連携交流 (3)近隣高校との連携
	さわの里小 (元上中里小を使用)	元上中里小 元水取沢小	「豊かな感性・思いやりをもち、ねばり強く考え、できた喜びを分かち合う子に育てます。」 (1)「補充」「基礎」「発展」の習得に向けた授業力向上 (2)国語・英語教育に重点を置いたコミュニケーション能力の育成 (3)一部教科担任制の導入
18年度	野庭すずかけ小 (元野庭東小を使用)	元野庭小 元野庭東小	(1)基礎・基本の習得 (2)小中一貫教育 (3)近隣高校との連携
19年度	瀬谷さくら小 (現下瀬谷小を使用予定)	現下瀬谷小 現日向山小	(1)国語教育の充実 (2)地域特性を活かした教育活動

## 6 再編統合の検討の進め方

### (1) 検討方法

保護者代表、地域代表、学校関係者などで構成する「小規模校再編検討委員会」を設置し、地域の理解と協力を得ながら具体的な検討を行います。

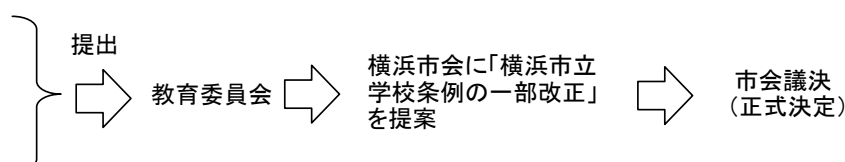
### (2) 統合に当たっての考え方

一方の学校が残り、他方の学校が廃止されるということではなく、両校を一旦閉校し、新たな学校を誕生させるという考え方で統合を検討します。

したがって、学校の名称も白紙から検討することとし、新たな学校のあり方等については両校が対等の立場で検討します。

### (3) 検討委員会の検討事項等

- 統合時期
- 統合校の設置場所
- 統合校の学校名
- 通学区域変更案に関すること
- 通学安全要望に関すること
- 上記検討結果をまとめた意見書の作成



## 7 再編統合に向けた調整事項

再編検討委員会について、教育委員会と準備会出席者で協議した結果、次のとおりとなりました。

### 1 再編検討委員会の委員

委員については特にご意見がなかったため、教育委員会から下記のとおり、委員(案)を提示しました。この委員(案)に基づき委員会を開催します。

ひかりが丘団地自治会 会長	大池小 PTA会長
西ひかりが丘団地自治会 会長	大池小学校PTA 副会長
ハーベストタウン町内会 会長	大池小学校PTA 書記
フォレストヒルズ自治会 会長	大池小学校PTA 会計
上白根町内会 会長	ひかりが丘小 PTA会長
上白根地区民生委員児童委員協議会 副会長	ひかりが丘小学校PTA 副会長
旭区青少年指導員連絡協議会 上白根地区会長	ひかりが丘小学校PTA 書記
旭区体育指導員連絡協議会 上白根地区会長	ひかりが丘小学校PTA 会計
ひかりが丘地域ケアプラザ所長	上白根中学校 PTA会長
ひかり本部運営委員会 委員長	大池小学校校長
ひかり本部運営委員会 委員	ひかりが丘小学校校長
上白根地区社会福祉協議会会長	上白根中学校校長

### 2 役員の選任方法

委員長については教育委員会から指名します。副委員長については第1回委員会で互選により決定します。

### 3 検討委員会の開催場所

第1回委員会については、ひかりが丘小学校コミュニティハウスで開催します。

### 4 開催日・第1回委員会開催時期

月1回程度。平日夜に開催。

第1回委員会は5月中旬に開催。正式な日程は各委員と調整後に決定します。

### 5 運営方法

代理出席 → 第1回委員会において決めます。

## 準備会での主なご意見・ご質問

★ 統合の時期が平成23年度とあるが、これで決まっているのか。検討の余地はないのか。もう少し先に延ばした方が良いと思うのだが。

→ 教育委員会は最短で平成23年4月と考えています。(学校計画課)

→ 子どもを増やすことはできないので先延ばしせずに行く方がよい。(参加者)

★ 第1回の委員会は、自治会の総会の後が良いので、5月中旬が良い。

★ ひかりが丘小は来年度、学校運営協議会を立ち上げるが、第1回目の会議を4月30日(木)に予定している。検討委員予定者もメンバーに入っている中で、5月中旬の方が良いだろう。

→ 教育委員会としての準備の都合もあり、5月中旬頃に開催したいと考えています。(学校計画課)

★ 資料に検討委員会の検討事項として「通学区域変更案に関する事」とあるが、これも検討することになるのか。

→ 今回の資料は、再編統合の一般的な進め方を基にしているのでこの項目が載っている。一般的には小学校と中学校の学区は8割方が一致しないので、再編検討をする際に学区を一緒に調整することが多いが、ひかりが丘小と大池小の学区は上白根中の学区と一致しているので、通学区域変更の検討はあまり必要ないと思います。(学校計画課)

★ 子どもが減っているなら、1学級の子どもの人数を減らしてクラス数を増やすことはできないのか。

→ 学級編成については県の教育委員会で、1学級40人と決められている。また、小中学校の先生の給料は学級編成に合わせて県が負担しているので、1学級を35人などに減らした場合、県からの給料が減る分を横浜市で負担できるかという問題がある。他都市の例で負担しているところもあるが、横浜市は小中学校合わせて491校と、学校数が多いので難しい。(学校計画課)

★ 検討委員会ニュースは検討委員が作るのか。

→ 教育委員会で作ります。委員会の議事等を基にニュースの原稿を作成し、正・副委員長に確認してもらって、印刷・配布します。(学校計画課)

★ これまでほかの地区での統合で、共通してあった問題や質問があれば教えて欲しい。

→ これまで関わった栄区の上郷小・庄戸小と、旭区の若葉台小・中の統合では、①統合によって通学距離が長くなるので通学の安全の確保ができるか、②違う学校の子どもたちが一緒になるが、うまくなじめるのかという点に一番関心が集まりました。(学校計画課)

今回の準備会は下記の方々あてに出席を依頼し、開催させていただきました。  
(当日は本人欠席による代理出席あり。)

**大池小・ひかりが丘小 小規模校再編検討委員会「準備会」名簿 (開催日当時の役職で記載)**

中井 正文	ひかりが丘団地自治会 会長	鈴木 収	大池小学校PTA
島村 和雄	西ひかりが丘団地自治会 会長	柴田 登志子	大池小学校PTA 副会長
中野 保弘	ハーベストタウン町内会 会長	新谷 春美	大池小学校PTA
高橋 学	フォレストヒルズ自治会	日塔 由紀子	大池小学校PTA 会計
高橋 基	上白根町内会 会長	小島 貴之	ひかりが丘小学校 PTA会長
山内 哲夫	上白根地区民生委員児童委員協議会 会長	有我 恵子	ひかりが丘小学校PTA
磯野 寛	旭区青少年指導員連絡協議会 上白根地区会長	鈴木 さをり	ひかりが丘小学校PTA
岡部 末敏	旭区体育指導委員連絡協議会	大林 美幸	ひかりが丘小学校PTA
成瀬 志津子	ひかりが丘地域ケアプラザ所長	伊藤 美則	上白根中学校 PTA会長
山内 道子	ひかり本部運営委員会 委員長	深山 喜美子	大池小学校校長
生井 正弘	ひかり本部運営委員会 委員	西野 正人	ひかりが丘小学校校長
鈴木 載代	上白根地区社会福祉協議会会長	保科 達郎	上白根中学校校長

横浜市教育委員会は、常に皆さまからのご意見をいただいております。

FAXかEメールにて、事務局までご連絡ください。

FAX:045-651-1417

Eメール:ky-hikarigaoka@city.yokohama.jp

TEL:045-671-3253

横浜市教育委員会事務局 学校計画課

